

サークル活動完了報告書

サークル名	GO!GO!home	発表者	伊達 美樹
		リーダー	伊達 美樹
部署	5階東病棟	サブリーダー	熊田 智子
活動期間	開始:平成 24 年 7 月 1 日	メンバー	新田 瞳
	終了:平成 25 年 1 月 19 日		末長 周代 新濱 伸江
会合状況	会合回数	6 回	
	1回あたりの会合時間	50分	
所属長/推進メンバー	井上すず江	所見欄	
レビュー担当者	(株)麻生 向野 早苗		

テーマ

退院調整へ看護師スタッフが積極的に関わるにはどうすればいいか

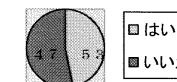
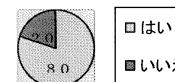
テーマ選定理由

当病棟には、亜急性病床が12床あるが、なかなか退院調整がすすまず入院期間が長期になるために、早期自宅退院の取り組みを行う。→まずは退院調整に関わるスタッフの意識調査を行うこととした。

現状把握

5 東スタッフへ退院システムフロー図の認知度調査を 10 月に行った。

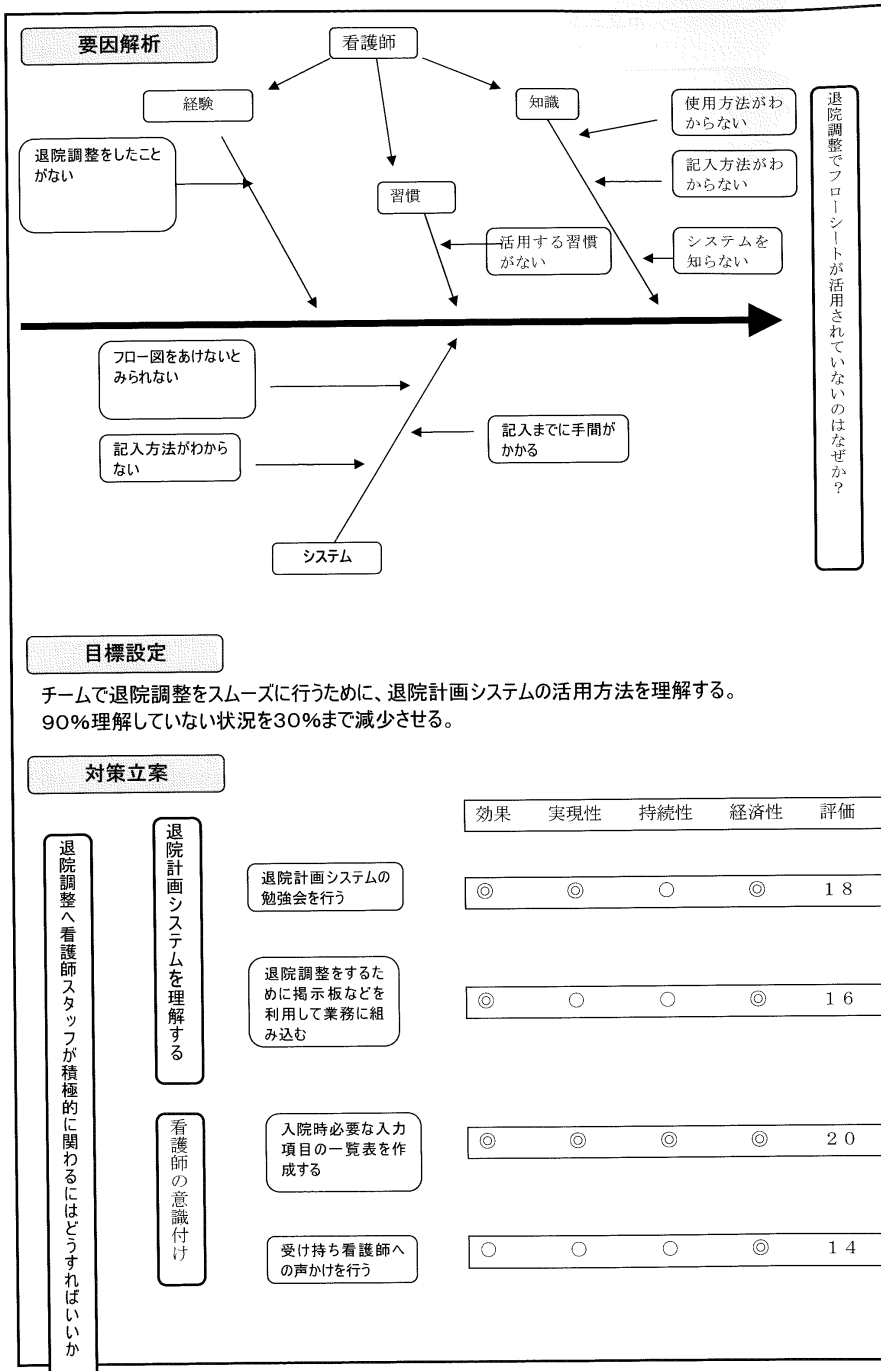
1 退院システムフロー図を知っているか？ 2 退院システムの流れを知っているか？



3 退院システムフロー図が活用できているか？



その結果、システムフロー図を知ってはいるが退院システムの流れを半数が知らず、活用できていないことがわかった。



対策実施

何を	いつ	どこで	だれが	どうする
勉強会	H24・12・1	5 東	CS メンバー	プレゼン
未記入の退院計画書	入院時	電子カルテ掲示板	当日担当ナース	予定を記入
一覧表作成	H24・12	5 東	CS メンバー	既存のものリメイク
受け持ちへ声かけ	適宜	電子カルテ掲示板	CS メンバー	記入の声かけ

効果確認

勉強会と一覧表作成を行った。平成24年12月から実施予定であったが、ノロウイルスによる病棟閉鎖などで、入院患者がストップとなり実践までにはいたらず、評価ができなかった。

まとめと今後の課題

1 月から病棟閉鎖解除となり、徐々に入院患者への退院調整が再スタートした。今後は、CSメンバーがリーダー的存在となり、退院調整がスムーズに行えるように、日々スタッフへの声かけを地道に継続していく。経験の浅いスタッフへは、先輩スタッフが、その方法について手本をしめして、実践モデルとなる。

2 月から亜急性病床が12床→8床へ減少するが、入院時から退院を見越した関わりができるように、積極的に活動していく。